

**モロッコで節水・収量拡大を実現する土壌改良材の市場調査・試験導入を開始  
— 国際協力機構との間で実証・普及事業の業務委託契約を締結 —**

(株)鳥取再資源化研究所(本社:鳥取県、代表取締役:竹内 義章、以下「当社」と国際協力機構(「JICA」)は6月4日、モロッコにおける当社製ガラス発泡材「ポーラス $\alpha$ 」の土壌改良材としての製造・販売の実現に向けた普及・実証事業にかかる業務委託契約を締結致しました。

ポーラス $\alpha$ は土壌改良材として、節水と収量拡大を実現します。同製品はリサイクルガラスと貝殻を主原料とした多孔質ガラス発泡体で、多数の小さな空間(空隙)を有しています。ポーラス $\alpha$ を土壌と混合することで、土壌の保水性と通気性が向上し、節水と収穫量の拡大を同時に実現します。これまで、共同研究を行っている鳥取大学を始め、ケニア、モーリタニア、セネガルにおいて、その効果が確認されています。

またポーラス $\alpha$ は「安心・簡単・長持ち」という特徴を備えています。原料となるガラスに含まれる有害物質の溶出について日本の土壌環境基準を満たしており、一度土壌と混合するだけで、長く安心して使える製品となっています。



今回対象としているモロッコは欧州を主な輸出先とした一大農業国で、特にトマト輸出は2014年の輸出量が42万トンで世界第6位(出所:UN COMTRADE)となっています。一方でトマトの一大産地である同国南部・大西洋沿岸は降雨量が少なく、持続的な農業の実現には節水が大きな課題となっています。(左写真:モロッコでのビニールハウスにおけるトマト栽培)

今回のJICA実証・普及事業では、今月、現地生産・販売事業の可能性調査を開始するとともに、本年7月末には鳥取にて、現地農業開発公団向けに研修を実施。その後2017年11月までの契約期間で、実証試験や周辺農家へのポーラス $\alpha$ の試験導入による技術移転を実施します。

当社は引き続き、リサイクルガラスを活用した多孔質ガラス発泡材「ポーラス $\alpha$ 」を通じて、食料・水問題をはじめとする地球環境課題の解決に貢献して参ります。

本件に関するお問い合わせ:株式会社鳥取再資源化研究所 上井  
TEL 0858-49-6230 FAX 0858-49-6288 e-mail: [kamii@t-rrl.jp](mailto:kamii@t-rrl.jp)

(株)鳥取再資源化研究所について:リサイクルガラスを活用した多孔質ガラス発泡材「ポーラス $\alpha$ 」の製造とその活用を通じた土壌改良、悪臭の微生物分解、水質浄化、リン・フッ素吸着回収ソリューションを提供しています。<http://www.t-rrl.jp/>